

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792610016		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	福島県河沼郡湯川村大字浜崎字城東1589-1		
自己評価作成日	平成26年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成26年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームのコンセプトとして「閉じこもりにならず皆と過ごす」を優先にした作りになっており、共有スペースを広くとってあります。居間は明るく広々と開放的です。一人ひとりが気兼ねなく毎日楽しく、住み慣れた地域で過ごせるよう支援しています。『笑顔』を介護目標にかかげ利用者様・職員の笑顔が絶えない、共に暮らす関係作りに力を入れています。家庭での生活習慣を継続して頂けるよう、遅番体制をとり毎日全員が入浴できるようにする等、清潔を保持し、常に状態を把握し、健康管理にも気を付けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地区の高齢者対象の介護予防事業「すこやか浜崎」と連携し、利用者と地域との関係を密にしている。
地域の行事に参加することにより、利用者の自立と健康維持につながっている。
事業所の介護目標である笑顔は、利用者職員のかかわりを深め、早期の気づき、生活支援の充実につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で、安心して暮らせるように」とする理念を作り、玄関や事務室に掲示し、新入職員にも説明し、理解を深め仕事に生かしている。	一日を楽しく過ごしてもらおうと職員全員が笑顔を中心掛け、利用者に接している。職員は、利用者の表情から何を望んでいるのかを感じ取り、理念を実践できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地区の介護予防事業に毎月2回参加したり、ゴミ拾いや資源回収等に協力している。近所の方々から、野菜や花などの差し入れも多くある。	町内会活動に積極的に参加して、野菜などの差し入れがあり地域との付き合いが深まっている。地域の行事に参加することで、利用者との触れ合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内の見学等にも随時対応し、認知症に対する説明や対応の仕方をお話している。また、電話や面会による相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、実際に行事に参加して頂き、利用者様と職員、地域の方々との関わりを感じ理解していただくと共に、その都度意見を頂いている。	運営報告に基づき、活発な意見交換が行われている。介護事業への理解度を高めるため、老健施設「ハートランドケア東町」への見学会を7月に開催し、理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の担当職員と地域包括支援センターの職員に運営推進委員として参加していただき、利用者様の状態や入退所の動向を報告している。	村の担当者に9月開催の敬老会のお知らせをし、湯川村長に出席していただいている。敬老会終了後も利用者と一緒に、お茶や歌で利用者と触れ合いながら事業所の理解を深めていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修等にて理解を深めるとともに、身体拘束をしないケアを常に心がけている。	法人内部、外部機関等の研修会に職員が参加して拘束に関する知識を深めている。月一回の職員会議においても利用者との関わり方、問題点を話し合い、拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にも参加しており、職員同士のコミュニケーションを密にとり、ストレスのためない職場作りを心がけると共に、良くないと思われるケアの段階でお互い注意し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用される方はいないが、半数以上の職員は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時だけでなく疑問がある場合には、いつでも十分な説明を行い納得してもらえるよう、対応している。また、改正の際も口頭と文章で説明し、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりや会話の中から、あるいは面会に来られた際に御家族との会話の中から見つけたり、利用者様、御家族が苦情を言い易い関係作りに努めている。	入居時に家族からの意向を聞き取り、介護計画を作成し、利用者の見守り、触れ合いから慣れ親しんだ生活を送れるように計画の見直しを行っている。定期的に家族に経過報告すると共に要望を聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者(理事長)が定期的に各施設に出向き、行事に参加したり職員と利用者様とのコミュニケーションに努めている。その中で代表者自ら法人運営に参画し、職員の働く意欲向上や質の確保を図っている。また、管理者は職員の状況を考慮しながら勤務を組んでいる。	利用者への良質なサービスの提供は職員の心身の充実が必要として、個々の都合、意向を聞き取り、勤務シフトを組んでいる。また、運営に関しては職員会議で意見を聞く場を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年1回行い、自己評価、上司評価を参考に給与などに反映させている。また、年度末に自己申告書を職員に申告してもらい、個々人の努力ややりがいなどを上司と話し合い、向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に事業所内研修、関連法人との研修会を開催している。外部研修にも参加させ、知識・技術向上に繋げる機会を確保している。身だしなみや接遇マナーも随時指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人を含めたグループホームの管理者会議を場所を変えながら毎月開催し、管理者同士の情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の実態調査や関係者からの情報だけでなく、本人の話をじっくり聴くことにより、少しでも不安をなくし信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に御家族の不安や困っている事を聞きだし、家族としての思いを重く受け止め、どのような方向で援助するか話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基に、本人に必要な支援を見極めている。必要に応じて他のサービスの検討もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から、野菜の作り方等を教えて頂いたり、毎日の家事全般において一緒に行っている。お互いに得意とする所で協力しながら生活している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の希望があれば、いつでも外出・外泊の機会を持って頂けるよう支援している。特別な日には御家族も参加して一緒に祝っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	四季を通してのドライブでは、見慣れた景色を見る事や訪れたことがない場所への外出により喜ばれている。	知人・友人に来訪していただけるよう配慮している。ドライブの際に、馴染みの場を訪れたり、馴染みのお店で食事する等、関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士がそれぞれに関係を築いているが、常に見守りを行い、職員が間に入ることで孤立する事のないよう支援している。利用者様同士で気遣う姿も多く見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて、相談を受けたり、可能な範囲で支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添いケアを継続し、利用者様の表情等、言葉以外の部分に注意して観察を行い、本人の希望にそえるように支援している。	日々の利用者の表情の変化、かかわり合いから意向を汲み取り、接し方の充実を図っている。入浴時は利用者の心がほぐれ、普段話さないことが聞けるなど、意向汲み取りの大切な場になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	モニタリングでは得られない部分を、お茶の時間や食事の時間等、日々の生活の中でコミュニケーションを図り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を観察し、変化がある場合、介護記録や日誌に記入し、申し送り時にも報告し、常に情報を共有し、状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	遠方在住の御家族が多い為、電話や郵便等で意見を頂戴し、担当者会議を行い、介護計画を作成している。又、面会時に状態報告をと意向の確認を行い、介護計画の見直しに反映させている。状態変化時には随時見直しを行っている。	利用者本位を基本として担当者を決め、要望、体調変化、家族の意向を担当者会議で話し合い、介護計画を見直している。職員会議ではアイデアの発表、現状の認識を共有しながら臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で不足がちな内容については、毎月の職員会議で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	選挙や通院介助等、家族での対応が難しい場合は、必要に応じて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行っている行事(歳の神等)や地域の集まり(すこやか浜崎)に積極的に参加している。又、地域の方々ボランティア慰問を毎月受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の状態を把握し、早めの対応を心がけ、適切な受診支援ができるようにしている。また、かかりつけ医や協力医療機関と連携を密にとることで、適切な薬を処方して頂き、利用者様の状態の安定につなげられている。	かかりつけ医、協力病院の年一回の健康検診や定期受診により安心して生活を送れる支援体制を整えている。家族が同行出来ない時は職員が同行して結果を家族に連絡し、ケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師は居ないが、状態の変化や異常があれば速やかに医療機関に相談し指示を仰いだり、受診をしている。常に状態の変化や異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院等との連携は出来ており、情報交換や相談を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携が整えば、看取りまで取り組む方向ではあるが、現在は施設で可能な範囲で対応を行っている。	事業所では重度化した利用者を介助、介護する経験をしている。職員会議では活発な意見交換が行われ、寄り添いを共通意識として可能な範囲で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命講習を受けている。事故発生時のマニュアルも目の付くところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施するとともに、地域の協力も得られている。	毎月の避難訓練の他、年2回の通報訓練では広域消防署の協力を得て、防災意識の向上や消火器の使い方などの訓練を行っている。また、地元消防団員に見学していただくなど地域との連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライドを損ねないよう配慮した言葉かけを心がけている。	利用者の声かけは自尊心を損なわないよう配慮し、人格を尊重し対応している。また、利用者間で尊厳を損ねるようなときは、担当職員が間に入り、話を聞くなどしてプライバシーを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添いケアにより、言葉以外の訴え等にも注意して観察している。選択肢を多く持ち、少しでも本人の希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	作業やレクリエーションは興味を持てたら参加して頂いている。外出や散歩の希望もプランに入れる程頻繁に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の買い物、理美容院への外出支援を行っている。必要に応じて職員がその人らしい髪型にカットし、希望により毛染めも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分たちで作った野菜を食材とした献立を立てたり、一緒に調理をしたりと、職員も支援をしながらの食事を楽しんでいる。	中央のオープンキッチンで利用者と職員がカウンターをはさんで、話をしながら食事を楽しんでいる。においや調理の音が聞こえるなど、食べる意欲が高められている。誕生会などの行事のときは、希望のメニューを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分のチェックを行い注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タイミングを見てトイレの声がけを行い、出来るだけトイレで排泄できるように支援している。日中は布パンツにしたり時間や状況によりパットの種類を換える等の工夫をしている。	自立にむけて適切な時間と間隔をつかんで、トイレへの誘導を行っている。プライドを傷つけないよう声かけを工夫し、見守りながらトイレでの排泄に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し、食事・水分・運動等で予防と対策をとっている。チェック表により速やかな対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否のある方にも、タイミングや声掛けの工夫を行い、ほぼ全員が毎日入浴されている。夕食後の入浴もやっている。	利用者が好きな時間に、毎日入浴する体制を整えている。遅番シフトの入浴担当者と利用者の触れ合いで色々な話ができ、体の状態の確認を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長年の生活習慣を変えることなく、個々に合わせたペースで自由に休んで頂けるように支援している。また、休息の場所等もそれぞれで、状況に合わせた見守りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況の変化があった場合や薬の変更時は特に注意し観察し、記録に残している。医療機関との連携を取りながら必要でない薬はなるべく減らすような支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や掃除、裁縫、畑仕事など個々に合わせた役割を持って頂いている。又、カラオケ等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候によるが散歩を行っている。又、季節ごとの外出やコンサート等にも出掛けている。	菜園の手入れ、近郊の散歩は休憩できる所を考えたコースを選び、体力維持につなげている。季節の行事やドライブなど外出する機会を多くしている。11月には町内会の感謝祭に招待を受け、利用者が出席している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より現金を預かり、買い物への付き添いや支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば使用できる。家族に働き掛け電話のやり取りの協力を得ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のガラス窓の多さを活かし季節感や天候の変化を感じ取って頂くと共に、広い縁側で見慣れた風景を眺めることで、開放感と安心感を得られるよう配慮している。また、余計な飾りつけや展示はせず、家庭的な設えにしている。	南に面する居間には、太陽光が差し込み、光の量を調整し居心地良く、開放的な空間を作っている。和室の炬燵を囲んで利用者がテレビを観たり、寛いだ時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カウンター席と和室を有しており、それぞれに思い思いの場所で寛いでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	御家族やお気に入りの写真を貼ったりと、狭いながらも利用者様にとって居心地の良い空間となるよう支援している。	居室には使い慣れた小物等を飾り、安心した生活を過ごせるように配慮している。居室のドアには利用者の思い出の写真を飾り、自分の部屋が解かりやすくする工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口に、写真や名前を掲示し、自分の部屋がわかる様にしている。また、建物はバリアフリーになっており、てすりやスロープを設置している。		